

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「タブレットに親しもう」	7	○学年に応じた情報機器の操作の技術を身につけるとともに、課題解決に向けてタブレットや情報通信ネットワーク等を活用して情報を探し、見付けた情報が必要かどうか判断しながら情報を収集し処理できるようになり、学級の友達と情報交流をできるようにする。	①調べ学習を通して、アプリケーションソフトの使い方や、情報ネットワークなどを適切かつ効果的に活用する方法を理解している。 ②タブレットを活用して、情報の収集・分析、表現、発信を適切に実施している。 ③情報を適切に活用する技能や情報モラルの習得は、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①情報環境の変化と自分たちの生活との関わりに目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てている。 ②課題の解決のために多様な方法で自分の目的に応じた主体的な情報の選択と発信をしている。 ③タブレットや情報ネットワークなどを適切に活用して、情報を整理している。 ④意図した表現を実現するために、動きや記号の組み合わせを論理的に考え、まとめている。	①すすんで情報機器やアプリケーションを活用しようとしている。 ②自分とは違う活用の仕方や自分とは違う考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③情報機器や情報ネットワークとの関わりの中で、自分にできることを見付けようとしている。
ネパールについて知ろう	4	○地域における多文化共生を目指した活動を通して、外国人が多く住む地域の実態、それを支える人々の思いや組織について理解し、地域の一員として異なる文化を越えた共生の在り方を考えとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。	①地域には、多文化共生プラザ等外国人を支援する行政機関があることを知るとともに、多様な人が暮らしているまちのよさや、一人一人の存在が守られていることを理解している。 ②調査活動を目的や対象に応じた適切さで実施している。 ③多文化共生に対する自らの認識の高まりは、地域の日本人と外国人をつなげるために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をやるのか、何のためにやるのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。 ②交流会において行う質問について必要とする情報に応じて、質問の内容や方法を決めている。 ③多文化共生を実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。 ④活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かして表現している。	①地域に暮らす外国人との意見交流会において、異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見出そうとしている。 ②異なる文化の共生を目指したイベントの開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。 ③異なる文化の共生を目指したイベントを成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。
エダマメの変身	12	○エダマメの栽培を体験したり、大豆が加工されてできている食品を調べたりする活動を通して、日本の伝統的な食文化を知るとともに、日々の食事に感謝の気持ちを持ち、食べ物を大切にしようとするできるようにする。	①エダマメの栽培方法や大豆食品について知るとともに、大豆が優れた食品であることや、人々が昔から大豆を工夫して食べてきたことを理解している。 ②大豆の栽培方法や大豆食品について本やインターネットを適切に活用し、調査を実施している。 ③食に携わる人々には、食に対する思いや願いがあり、それが人々の健康で豊かな食生活につながるものであることに気付いている。	①エダマメ栽培や大豆の加工を行う際の課題を見出し、その解決方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てている。 ②課題の解決のために様々な方法で必要な情報を収集し、種類に合わせて適切に蓄積している。 ③体験や調べたことから得た情報を比較したり、関連付けたりして、確かな理由や根拠を見出している。 ④屈動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容が伝わるように表現している。	①エダマメ栽培に取り組み、大豆を使った加工品について調べることにおいて、異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重するとともに、共通性を見出そうとしている。 ②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ③自分と食に携わる方々とのつながりに気付き、感謝の気持ちをもって食べ物を大切にしていくなために自分たちにできることを考え行動している。
江戸川区じまん	12	○江戸川区の施設や伝統文化について調べたり、体験的な活動に取り組んだりすることを通して、江戸川区の特性や魅力について考え、それぞれの意図や良さを理解するとともに、江戸川区の施設や伝統文化とのつながりを意識しながら行動したり、生活したりできるようにする。	①江戸川区の施設や伝統文化について知るとともに、そのよさと課題及びそれに携わる人々の思いについて理解している。 ②江戸川区の施設や伝統文化について本やインターネットを適切に活用し、調査を実施している。 ③江戸川区の施設や伝統文化を支える人々には、思いや願いがあり、それが人々の健康で豊かな生活につながるものであることに気付いている。	①江戸川区の施設や伝統文化について知りそのよさと課題を見出し、その解決方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てている。 ②課題の解決のために様々な方法で必要な情報を収集し、種類に合わせて適切に蓄積している。 ③体験や調べたことから得た情報を比較したり、関連付けたりして、確かな理由や根拠を見出している。 ④屈動を通して学んだ江戸川区の施設や伝統文化のよさをPRする相手、内容、方法に応じて、表現している。	①江戸川区の施設や伝統文化について調べることにおいて、異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重するとともに、共通性を見出そうとしている。 ②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ③江戸川区のよさを伝える活動を成功させるために、友達と役割分担をしたり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「タブレットに親しもう」	7	○学年に応じた情報機器の操作の技術を身につけるとともに、課題解決に向けてタブレットや情報通信ネットワーク等を活用して情報を探し、見付けた情報が必要かどうか判断しながら情報を収集し処理できるように、学年の友達と情報交流をできるようにする。	①調べ学習を通して、アプリケーションソフトの使い方や、情報ネットワークなどを適切かつ効果的に活用する方法を理解している。 ②タブレットを活用して、情報の収集・分析、表現、発信を適切に実施している。 ③情報を適切に活用する技能や情報モラルの習得は、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①情報環境の変化と自分たちの生活との関わりに向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てている。 ②課題の解決のために多様な方法で自分の目的に応じた主体的な情報の選択と発信をしている。 ③タブレットや情報ネットワークなどを適切に活用して、情報を整理している。 ④意図した表現を実現するために、動きや記号の組み合わせを論理的に考え、まとめている。	①すすんで情報機器やアプリケーションを活用しようとしている。 ②自分とは違う活用の仕方や自分とは違う考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③情報機器や情報ネットワークとの関わりの中で、自分にできることを見付けようとしている。
ネパールについて知ろう	4	○地域における多文化共生を目指した活動を通して、外国人が多く住む地域の実態、それを支援する人々の思いや組織について理解し、地域の一員として異なる文化を越えた共生の在り方を考え、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。	①地域には、多文化共生プラザ等外国人を支援する行政機関があることを知るとともに、多様な人が暮らしているまちのよさや、一人一人の存在が守られていることを理解している。 ②調査活動を目的や対象に応じた適切さで実施している。 ③多文化共生に対する自らの認識の高まりは、地域の日本人と外国人をつなげるために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をするか、何のためにするかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。 ②交流会において行う質問について必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。 ③多文化共生を実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。 ④活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かしてラップで表現している。	①地域に暮らす外国人との意見交流会において、異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとしている。 ②異なる文化の共生を目指したイベントの開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。 ③異なる文化の共生を目指したイベントを成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。
六小プロダクツ2024 (SDGsについて調べよう。)	12	○社会問題とSDGs「17の目標」とのつながりに触れ、環境問題や人権問題等の背景にある原因について調べる活動を通して、企業や自治体の取り組みについて理解する。また、未来を創る担い手として自分に何ができるか考え、持続可能な社会の実現を意識しながら行動したり生活したりすることができるようにする。	①身近な環境問題や人権問題等の社会問題があることについて知るとともに、SDGsの概要と「17の目標」について理解している。 ②身近な社会問題やSDGsについて本やインターネットを適切に活用し、実施している。 ③環境問題や人権問題等が自分や家族、社会の一人一人の考えや取り組みと深くかかわっていることに気付いている。	①環境問題や人権問題等の背景にある原因と現状の課題とを関連付け、解決に向けた見直しをもって計画を立てている。 ②課題解決のために多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、記録することができる。 ③体験や調べたことから得た情報を比較したり、関連付けたりして、確かな理由や根拠を見出している。 ④探究的な活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容が伝わるように表現している。	①身近な社会問題について調べることにおいて、異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重するとともに、共通性を見出そうとしている。 ②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ③自分と社会のつながりに気づき、適切な生き方に気づき、未来のために自分ができることを考え行動している。
「福祉について考えよう」 (手話に親しもう)	12	○高齢者や身体に障がいのある方など様々な立場の人から話を聞いたり、体験したりする活動を通して課題をもち、不便に感じていることや思いを知り、すべての人にとって暮らしやすいやさしい町にするために、自分たちにできることは何か考え、実践することができるようにする。	①高齢者の方々や身体に障がいがある人たちの生活の様子を調べたり、福祉体験活動をしたりすることから課題を見出し、追求することを通して、生活の工夫や苦労について理解している。 ②様々な障がい特性やバリアフリーについて本やインターネットを適切に活用し、実施している。 ③すべての人にとって暮らしやすい優しい町にするためには、自分や家族、社会の一人一人の考えや取り組みと深くかかわっていることに気付いている。	①高齢者の方々や身体に障がいがある人たちの生活の様子を調べたり、福祉体験活動を通して学んだりしたことと課題とを関連付け、解決方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てている。 ②課題解決のために多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、記録することができる。 ③体験や調べたことから得た情報を比較したり、関連付けたりして、確かな理由や根拠を見出している。 ④探究的・体験的な活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容が伝わるように表現している。	①高齢者の方々や身体に障がいがある人たちの生活の様子について調べることにおいて、異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重するとともに、共通性を見出そうとしている。 ②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ③高齢者の方々や身体に障がいがある人たちの生活や生き方について主体的に探究することを通して、共に生きる社会の実現に参画していこうとする意識をもち、問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「実れ！ろくっこ米」	14	○米を育てたり、食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者について調べたりする活動を通して、生産者の思いや努力を理解し、持続可能な視点から地域の農業を守る活動について考えとともに、食料を大切にしながら行動したり生活したりすることができるようにする。	①米農家について調べる活動を通して、農業のよさと課題、携わる人々の願いを理解している。 ②調査活動を目的や対象に応じた適切さで実施している。 ③家庭科の調理や給食等の自らの食事において、適切な量を選び、食料を無駄にしないようにする。 ④食べ残しをしないなど、自分の意識や行動の変容は、食の問題や生産者の願い等について探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①自分たちを取り巻く地域社会に広く目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てている。 ②課題の解決のために多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面やICTで蓄積している。 ③いろいろな思考ツール等を用いて、集めた情報を整理し、情報と情報の関係を考えている。 ④他教科等で培った表現等を活用し、目的に応じて手段を選択し、情報収集やまとめ等を行っている。	①米農家や食をめぐる問題に関心を持ち、課題解決に向け、探究活動にすすんで取り組もうとしている。 ②探究活動を通して、自分のよさや他者のよさを生かしながら、協働して学び合おうとしている。 ③地域との関わりの中で、自分ができることを見付け、実践に移そうとしている。
「タブレットに親しもう」	6	○学年に応じた情報機器の操作の技術を身につけるとともに、課題解決に向けてタブレットや情報通信ネットワーク等を活用して情報を探し、見付けた情報が必要かどうか判断しながら情報を収集し処理できるようになり、校内の友達と情報交流をできるようにする。	①調べ学習を通して、アプリケーションソフトの使い方や、情報ネットワークなどを適切かつ効果的に活用する方法を理解している。 ②タブレットを活用して、情報の収集・分析、表現、発信を適切に実施している。 ③情報を適切に活用する技能や情報モラルの習得は、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①情報環境の変化と自分たちの生活との関わりについて目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てている。 ②課題の解決のために多様な方法で自分の目的に応じた主体的な情報の選択と発信をしている。 ③タブレットや情報ネットワークなどを適切に活用して、情報を整理している。 ④意図した表現を実現するために、動きや記号の組み合わせを論理的に考え、まとめている。	①すすんで情報機器やアプリケーションを活用しようとしている。 ②自分とは違う活用の仕方や自分とは違う考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③情報機器や情報ネットワークとの関わりの中で、自分ができることを見付けようとしている。
「ネパールについて知ろう」	5	○地域における多文化共生を目指した活動を通して、外国人が多く住む地域の実態、それを支援する人々の思いや組織について理解し、地域の一員として異なる文化を越えた共生の在り方を考えとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。	①地域には、多文化共生プラザ等外国人を支援する行政機関があることを知るとともに、多様な人が暮らしているまちのよさや、一人一人の存在が守られていることを理解している。 ②調査活動を目的や対象に応じた適切さで実施している。 ③多文化共生に対する自らの認識の高まりは、地域の日本人と外国人をつなげるために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をするのか、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。 ②交流会において行う質問について必要とする情報に応じて、質問の内容や方法を決めている。 ③多文化共生を実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。 ④活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かして表現している。	①地域に暮らす外国人との意見交流会において、異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとしている。 ②異なる文化の共生を目指したイベントの開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。 ③異なる文化の共生を目指したイベントを成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。
「ウインタースクールを成功させよう」	10	○雪国での暮らしに目を向けて課題を見出し、雪国の暮らしや地域の伝統文化について考える活動を通して、地域の特性やそれを生かした暮らしについて考えとともに自分ができることを考え生活の中で実践に移すことができるようにする。	①雪国の気候に合わせた人々の生活の工夫や自然を生かした産業について知るとともに自分たちの生活とも関わっていることを理解している。 ②農家さんへのインタビューによる調査などを適切な方法で実施している。 ③雪国の暮らしへの興味やウインタースクールでお世話になる方への感謝の気持ちは、雪国と自分たちの生活との関わりを探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①雪国での暮らし目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てている。 ②課題の解決のために多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面やICTで蓄積している。 ③いろいろな思考ツール等を用いて、集めた情報を整理し、情報と情報の関係を考えている。 ④他教科等で培った表現等を活用し、目的に応じて手段を選択し、情報収集やまとめ等を行っている。	①雪国で暮らす人々の生活の工夫などに興味・関心を持ち、探究活動にすすんで取り組もうとしている。 ②自分から進んで調べたり考えたりすることを通して、自分のよさや他者のよさを生かしながら、協働して学び合おうとしている。 ③ウインタースクールに向けての計画や準備など、意欲的に友達と協働し、地域との関わりの中で、自分ができることを見付け、実践に移そうとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のわらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「六小安全マップを作ろう」	14	○自然災害から多くの人の命を守るために、自然災害そのものや命を守るための対策などについて調べたり、地域で活動している方や防災の専門家と協働して活動したりすることを通して、命を守るための方法や行動の仕方について理解し、地域や学校の防災の在り方について考えとともに、学んだことを生かし自らの生活や行動に生かそうとするようにする。	①自然災害や防災について知るとともに、災害から身を守るために自助・公助・共助の考えがあり、それらが相互に連携していることや、自分たちの生活と関わっていることを理解している。 ②インタビューや質問紙などによる調査を、目的や場面にに応じた方法で実施している。 ③自分で自分の命を守る意識と防災の重要性への認識の高まりは、自然災害や防災と自分たちの生活との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①自分たちの命を守る防災の在り方について、客観的なデータや防災の必要性から課題を設定し、解決に向けて自分たちができることを見通している。 ②自然災害や防災の在り方をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選択し収集している。 ③避難所生活を送るために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、解決に向けて考えている。 ④活動を通して学んだ防災に関する内容や、防災と自分たちの生活について、映像や資料でまとめ、表現している。	①自然災害や防災に関心を持ち、自分自身の生活を見つめ直し、自分の意思で探求的な学習に取り組もうとしている。 ②調べ学習を通して得た知識や、自分と異なる友達や、専門家の意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③自然災害や防災と自分たちの生活との関わりに気付き、自分の命を守る行動の重要性を訴えようとしている。
「タブレットに親しもう」	6	○学年に応じた情報機器の操作の技術を身につけるとともに、課題解決に向けてタブレットや情報通信ネットワーク等を活用して情報を探し、見つけた情報が必要かどうか判断しながら情報を収集し処理できるように、校内の友達や様々な人と情報交流をできるようにする。	①調べ学習を通して、アプリケーションソフトの使い方や、情報ネットワークなどを適切かつ効果的に活用する方法を理解している。 ②タブレットを活用して、情報の収集・分析、表現、発信を適切に実施している。 ③情報を適切に活用する技能や情報モラルの習得は、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①情報環境の変化と自分たちの生活との関わりを目を向け課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てている。 ②課題の解決のために多様な方法で自分の目的に応じた主体的な情報の選択と発信をしている。 ③タブレットや情報ネットワークなどを適切に活用して、情報を整理している。 ④意図した表現を実現するために、動きや記号の組み合わせを論理的に考え、まとめている。	①すでに情報機器やアプリケーションを活用しようとしている。 ②自分とは違う活用の仕方や自分とは違う考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③情報機器や情報ネットワークとの関わりの中で、自分ができることを見付けようとしている。学習することができる。
「ネパールについて知ろう」	5	○地域における多文化共生を目指した活動を通して、外国人が多く住む地域の実態、それを支援する人々の思いや組織について理解し、地域の一員として異なる文化を越えた共生の在り方を考えとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。	①地域には、多文化共生プラザ等外国人を支援する行政機関があることを知るとともに、多様な人が暮らしているまちのよさや、一人一人の存在が守られていることを理解している。 ②調査活動を目的や対象に応じた適切さで実施している。 ③多文化共生に対する自らの認識の高まりは、地域の日本人と外国人をつなげるために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をするか、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。 ②交流会において行う質問について必要とする情報に応じて、質問の内容や方法を決めている。 ③多文化共生を実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。 ④活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かして表現している。	①地域に暮らす外国人との意見交流会において、異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとしている。 ②異なる文化の共生を目指したイベントの開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。 ③異なる文化の共生を目指したイベントを成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。
「マイプロフィールを作ろう」	10	○キャリアプランニングを通して、自己理解を深め、将来の目標に向かって生活や学習の仕方を工夫・改善する方法を理解するとともに、様々な職業のよさやそこで働く人々の思いに気付き、自己の将来の夢やそのために今しなければならぬことについて考え、学んだことをこれからの自己の生き方や生活に生かそうとする。	①社会には、様々な職業があり、それぞれに特徴や良さ、そこで働く人々の思いがあることを理解している。 ②自分の夢や希望を実現するためには、その特徴に合わせて努力しなければならないことを理解している。 ③職業について調べたり、これまでの思いを振り返ったりして目的や場面に応じた方法で情報を収集している。 ④自己の将来や、職業への興味の深まりは、自分と向き合い、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①自分の将来や夢について考えたり、これまでの思い出を振り返ったりすることで課題を作り、解決に向けて自分ができることを考えている。 ②興味のある職業や身の回りの人たちが就いている職業に関する情報を手段を選択して収集している。 ③収集した情報から、将来の夢の実現に向けて必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①職業について調べる活動や思い出を振り返ることを通じて得た知識や自分と違う考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ②課題解決の状況を振り返り、自己の将来の夢の実現のために今しなければならぬこと等、課題の解決に向けてあきらめずに取り組もうとしている。